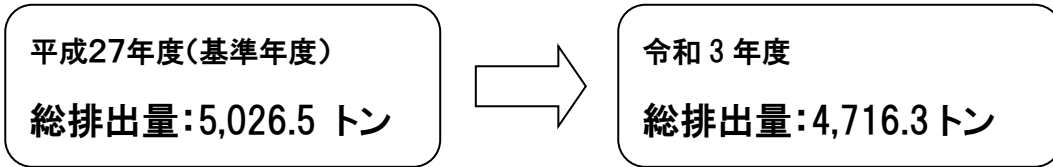


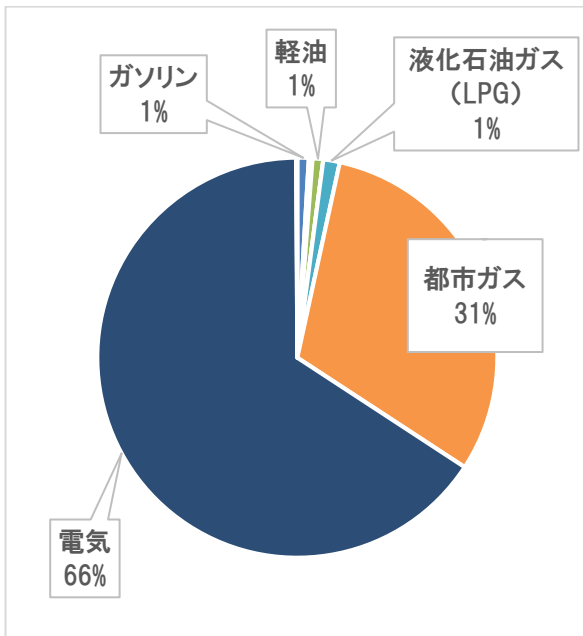
令和3年度温室効果ガス排出量まとめ

1. 温室効果ガス排出量について

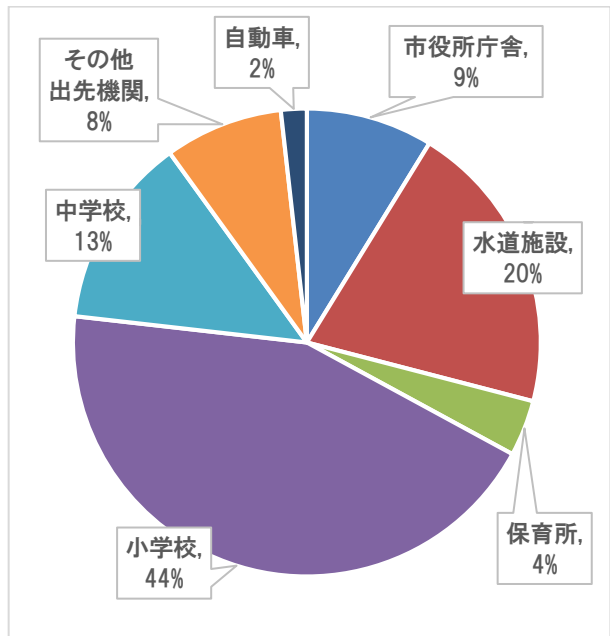


※平成27年度比 6.2%削減

■発生源別二酸化炭素排出割合



■施設別二酸化炭素排出割合



2. 森林整備によるCO₂吸収量

🌳 森林整備面積：6.38ha

🌳 CO₂吸収量：37.2t

H27年度比
5.5%削減

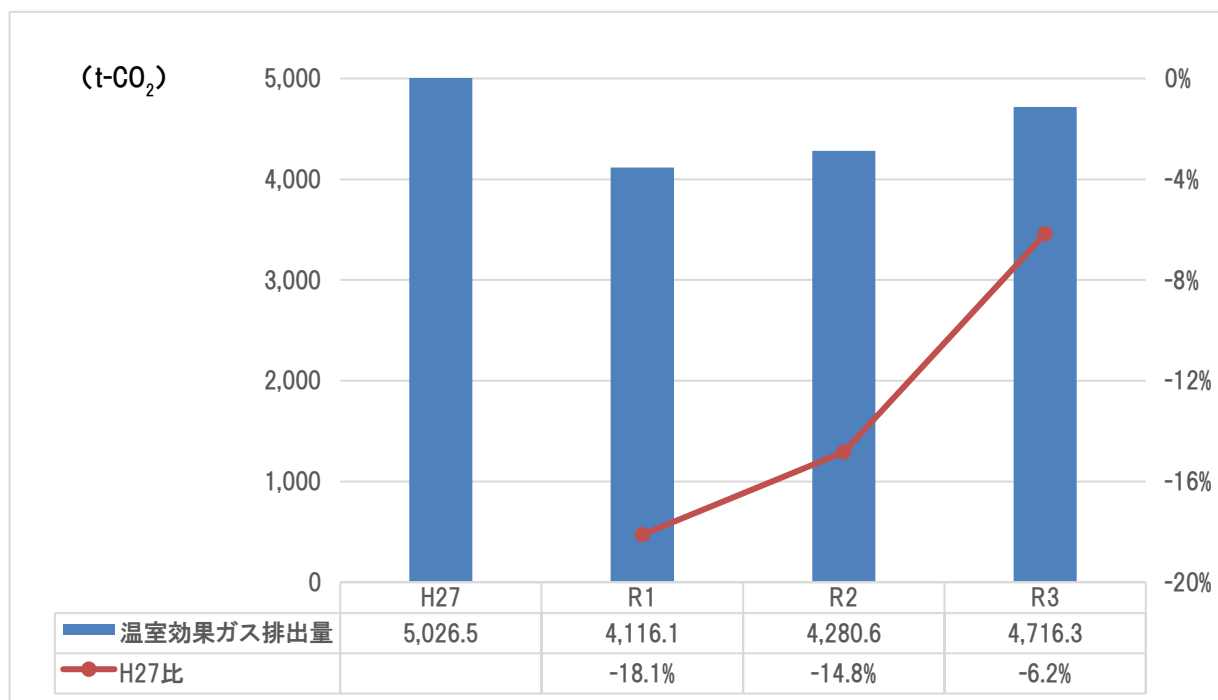
全体(総排出量 4,716.3t－森林吸収量 37.2t)＝4,679.1t

※平成27年度総排出量 4,952.2 t

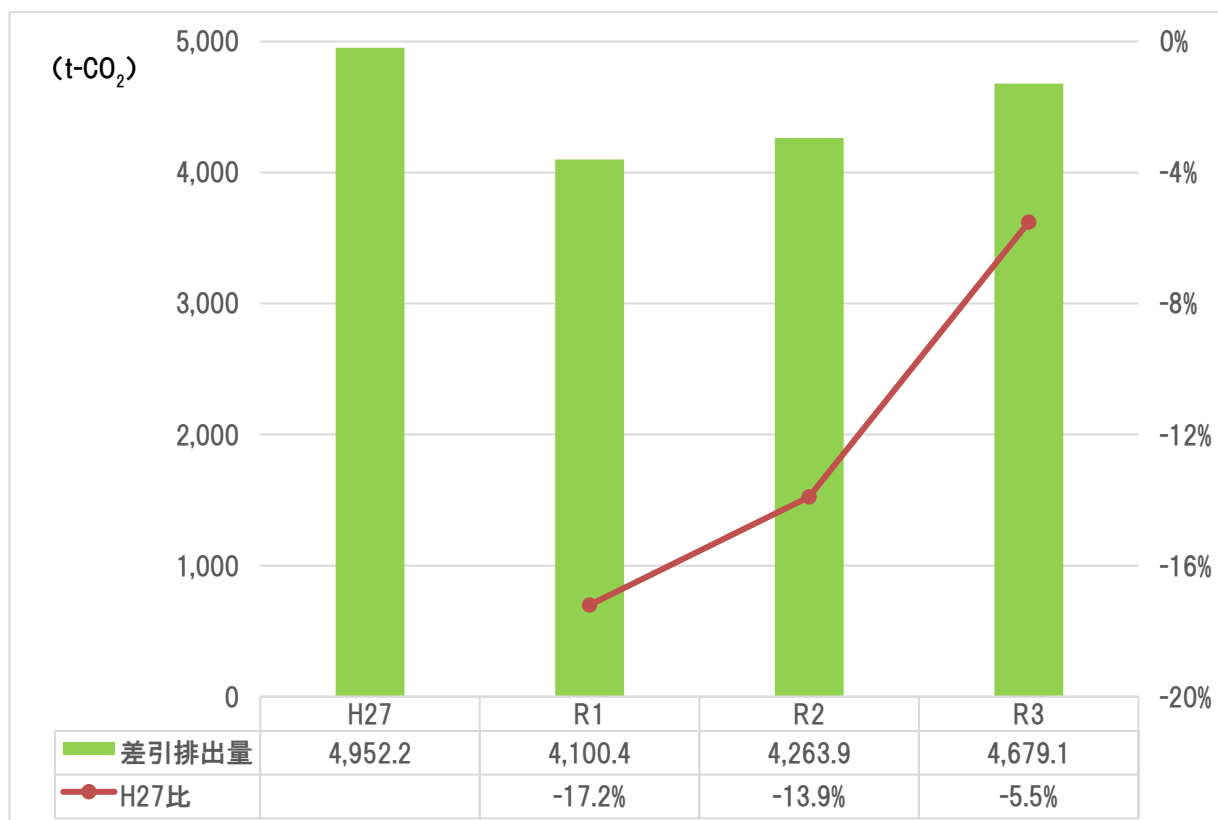


《推移》

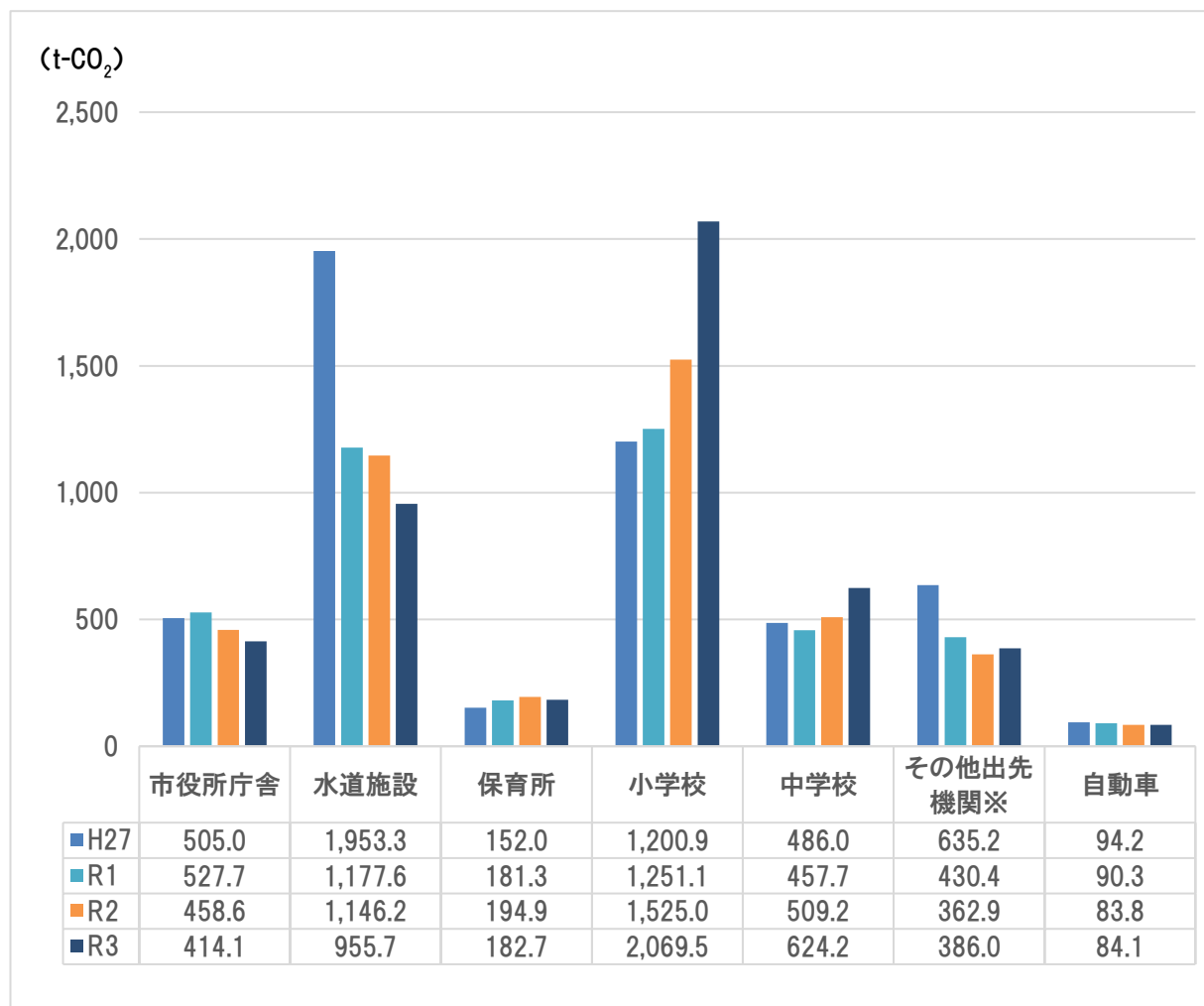
① 温室効果ガス排出量推移



② 温室効果ガス排出量（森林吸収量含む）推移



③ 施設別の温室効果ガス排出量推移



※中央公民館、図書館、北開田会館、北開田児童館、老人福祉センター、保健センター、多世代交流ふれあいセンター

《考察》

令和3年度に市関係施設から排出された温室効果ガス排出量は、4,716.3 t であり、第五次長岡京市役所地球温暖化防止実行計画の基準年度である平成27年度の温室効果ガス排出量 5,026.5 t と比較すると、6.2%減少する結果となりました。

平成27年度と比較して温室効果ガス排出量が削減できた最も大きな要因は、契約電力会社の排出係数が下がったことによります。

前年度との比較で見ると、温室効果ガス排出量は、令和2年度 4,280.6 t に対し、435.7 t 増加するという結果でした。その内訳を発生源別に見ると、電気由来の排出量が、386.0 t-CO₂ 増と、他の発生源に比べ最も多く増えています。

さらに電気の使用量に着目すると、施設全体で 593.4MWh 減っているにも関わらず、CO₂ 排出量が増えているということで、契約電力会社の排出係数が増加したことが、電気由来の排出量の増加要因とすることができます。

このように電気の使用量が減っているにも関わらず、CO₂ 排出量が増加している状況は、取り組みの成果が見えづらいとすることができます。

今後は、エネルギーを使う側の選択として、環境にやさしい電力（排出係数の低いもの）の購入を検討していく必要があります。

個別の施設で特筆すべき点としては、東第 2 浄水場の電気使用量が令和 2 年度 1,695,762kWh に対し、令和 3 年度 934,177kWh と、761,585kWh 減少しています。これは、令和 3 年度途中から始まった東第 2 浄水場の耐震化工事に伴い、市地下水の揚水を停止したためです。揚水・浄水に伴う電気使用量はとても大きいため、大幅に電気使用量が下がる結果となりました。ちなみに、耐震化工事中の水道水の確保は、府営水により賄われています。

その他、個別の施設で特筆すべき点として、神足保育所の民営化が挙げられます。令和 3 年 4 月からの民営化により、エネルギー使用量の集計から外すこととしています。

温室効果ガスの吸収源である西山の森林 CO₂ 吸収量については、令和 3 年度整備面積 6.38ha に対し、37.2 t-CO₂ の吸収量が認定されました。森林吸収量を差し引いた後の温室効果ガス排出量では、基準年度の平成 27 年度が 4,952.2 t-CO₂ であったのに対し、令和 3 年度は 4,679.1 t-CO₂ となり、5.5%の削減となりました。

市は、令和 4 年 4 月 1 日付けで、「2050 年ゼロカーボンシティ」を目指すことを宣言しました。その実現のためには、行政だけでなく、市民・団体・事業者の取り組みが欠かせませんが、行政としての姿勢を示すため、今後も省エネや、太陽光に代表される再生可能エネルギーの積極的導入など、一事業所としての取り組みをさらに進めていきます。